

幕具

〔和漢三才圖會家飾具〕幕略○中

陣幕略○中 各用布六端内一端判四、以三分ナヒテミツグ綯三股左索、其長出於幕端各三尺也、

〔體源抄十八〕一幕布ノ長サ二丈五尺、チノアイ一尺二寸、ナフマゼくナラバ、チモマゼく一色也、

〔古今要覽稿器財〕あげはり帷 幕 幄

陣幕は、略○中 二丈八尺の布十二幅略○註 の内、二幅を乳と手繩の料、内三分を手繩とし、一分を乳と

す、乳は延喜式に紐といび手繩は綱といふものにて、手繩の長さ七間半、幕の兩端へ三尺づゝ、いづるやうにすと和漢三才圖會見えたり、

〔延喜式十七〕幕内匠。桁一枚、周一丈三尺、柱二枚、各長九尺、料漆七合、掃墨五合、功一人略○中

野宮裝束

塗黒漆略○中 幕柱二枝、桁一枝、長一丈五尺、單功廿九人中略、幕六人

〔延喜式四十三〕凡月料略○中 紺幕廿條純十四條、幕桁廿枝、柱卅枝、

〔體源抄十八〕一陣取時、先幕ヲハシラカシテ、幕串ヲ立時呪有、則振粹之法ヲ可用、是當家之口傳也、

〔古今要覽稿器財〕あげはり帷 幕 幄

幕串は、體源抄には長さ一丈五寸、幕一條に串六本打と見え、大江真忠相傳には、一條に九本とあり、近代は大將十本、軍士八本、かどを八ツにも、六ツにもして、上を蜻蜒頭、或は頭巾頭にして、石突を鐵にて包み、頭より四寸ほど下に折釘を打と大譜見えたり、幕串を竹にてするは忌事なり、此串を晝は内、夜は外に打、また平生は内、軍陣には外に打、いづれにても左の方より打始るなど三議統一あり、これらのこと家々の相傳同じからず、

〔宗長息女婚禮記錄〕息女小笠原宗長嫁武田晴信出給ふ時略○中 道具の順は二の門にて定候也、略○中